



Solaris™ Security Toolkit 4.1.1 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3286-10
2005 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris Security Toolkit 4.1.1 Release Notes
Part No: 817-1635-10
Revision A



Adobe PostScript

目次

はじめに	v
Solaris Security Toolkit 4.1.1 ご使用にあたって	1
Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアの変更点	1
必要なオペレーティングシステム	2
SMS 1.5 ソフトウェアのサポート	2
Solaris Security Toolkit のマニュアル	2
Solaris Security Toolkit の既知の制限事項	3
一般的な問題	3
SMS ソフトウェアと Solaris Security Toolkit	3
Solaris Security Toolkit と CTRL-C キー操作	3
fix-modes による警告の表示	4
Solaris Security Toolkit に関するアンケート	4
Solaris Security Toolkit ソフトウェアのバグ	4
undo により logadm.conf の変更が報告される (BugID 5067303)	4
Solaris Security Toolkit マニュアルの誤り	5
リファレンスマニュアルで banner.msg の記載が欠落している (BugID 6177578)	5
削除すべき env var の記載 (BugID 6177598)	5

はじめに

このマニュアルには、Service Management System (SMS) 1.5 ソフトウェアおよびその標準セキュリティー機能と連携して機能する Solaris™ Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアのリリース情報を記載します。

お読みになる前に

このマニュアルは、Solaris™ のサン認定システム管理者または Solaris™ オペレーティングシステムのサン認定ネットワーク管理者を対象にしています。読者は、標準ネットワークプロトコルおよびトポロジーについて理解している必要があります。

このマニュアルは、セキュリティーについてさまざまなレベルの知識や経験を持つ方々に役立つように作成されているため、ご自分の知識や経験に合わせて適宜ご活用ください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

Solaris Security Toolkit 関連のマニュアルは、オンラインでも入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Software/enterprise_computing/systems_management/sst/index.html

System Management Services 1.5 関連のマニュアルは、オンラインでも入手できません。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_e25K-e20K/SW_FW_Documentation/SMS/index.html

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
管理者マニュアル	Solaris Security Toolkit 4.1 管理マニュアル	817-7424-10	PDF HTML	オン ライン
リファレンスマニュアル	Solaris Security Toolkit 4.1 リファレンスマニュアル	817-7750-10	PDF HTML	オン ライン
マニュアルページ	Solaris Security Toolkit 4.1 マニュアルページガイド	819-0111-10	PDF	オン ライン
SMS 1.5 のセキュリティー管理	System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル、第 2 章	817-7295-10	PDF HTML	オン ライン
最新情報、バグおよび回避策	System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって	817-7297-10	PDF HTML	オン ライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	説明
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF と HTML マニュアルをダウンロードする、印刷マニュアルを注文する
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	テクニカルサポートを受ける、パッチをダウンロードする、Sun のコースについて情報を入手する

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Solaris Security Toolkit 4.1.1 ご使用にあたって』、Part No. 819-3286-10

Solaris Security Toolkit 4.1.1 ご使用にあたって

このマニュアルでは、Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアのリリース情報として、以下の項目について説明します。

- 1 ページの「Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアの変更点」
- 2 ページの「SMS 1.5 ソフトウェアのサポート」
- 2 ページの「必要なオペレーティングシステム」
- 2 ページの「Solaris Security Toolkit のマニュアル」
- 3 ページの「Solaris Security Toolkit の既知の制限事項」
- 3 ページの「一般的な問題」
- 4 ページの「Solaris Security Toolkit ソフトウェアのバグ」
- 5 ページの「Solaris Security Toolkit マニュアルの誤り」

Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアの変更点

この節では、Solaris Security Toolkit 4.1 ソフトウェアに加えられた変更点に注目して、Solaris Security Toolkit 4.1 ソフトウェアと Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアの相違点を示します。

注 – Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアリリースは、Solaris Security Toolkit 4.1 ソフトウェアリリースのバグ修正リリースではありません。

- SMS 1.5 のサポートが追加されました。
- SMS 1.5 ユーザーが SMS 1.5 よりも古いバージョンのフェイルオーバー処理を実行するには、正しい順序で **undo** (取り消し) 操作とセキュリティー強化操作を実行する必要があります。SMS 1.5 より古いバージョンを機能させるためには、特定の

サービス (login、shell、および exec) を有効にする必要があります。詳細は、『System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル』の第 2 章または『System Management Services (SMS) 1.5 ご使用にあたって』を参照してください。

- ファイルオーバー機能は、Secure Shell (ssh) と安全でないサービスの設定を行わなくても動作します。
- SC で静的アドレス再構成プロトコル (ARP) の設定を行わなくてもよくなりました。
- ドメインの除外は手動で行う必要があります。具体的な手順については、『System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル』を参照してください。

必要なオペレーティングシステム

Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアは、Solaris 8 または Solaris 9 オペレーティングシステムでしか動作しません。今回の Solaris Security Toolkit 4.1.1 リリースは、Solaris 10 オペレーティングシステムをサポートせず、Solaris 10 オペレーティングシステムでは動作しません。

SMS 1.5 ソフトウェアのサポート

Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアは、System Management Services (SMS) 1.5 ソフトウェアとそのデフォルトのセキュリティー機能をサポートします。これらの機能を使用するには、システムコントローラ (SC) から Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアを使用する必要があります。Sun Fire ハイエンドシステムの保護については、『System Management Services (SMS) 1.5 管理者マニュアル』の第 2 章を参照してください。

Solaris Security Toolkit のマニュアル

すべてのバージョンの Solaris Security Toolkit ソフトウェアに適用される汎用情報については、Solaris Security Toolkit 4.1 の関連マニュアルを参照してください。URL は以下のとおりです。

Solaris Security Toolkit の既知の制限事項

この節では、Solaris Security Toolkit 4.1 および 4.1.1 ソフトウェアの既知の制限事項について説明します。

- Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアでは、システムアカウントを無効にするための機能 (終了スクリプト `disable-system-accounts.fin` を参照) は維持されていますが、無効になったアカウントに対して試みられたログインを記録するように、システムを変更することはできなくなりました。

一般的な問題

この節では、Solaris Security Toolkit 4.1 および 4.1.1 ソフトウェアに関連する一般的な問題について説明します。

SMS ソフトウェアと Solaris Security Toolkit

サポートされる SMS のアップグレードとダウングレードについては、SMS ハイエンドシステム製品のマニュアルに記載されています。Solaris Security Toolkit 4.1 によってセキュリティー強化されたシステムコントローラ上で SMS のアップグレードまたはダウングレード操作を行う場合は、アップグレードまたはダウングレード完了後、システムコントローラを監査モードで実行してください。監査モードで実行すると、システムコントローラが適切な構成であることを確認できます。脆弱性が指摘された場合は、セキュリティー強化を再実行してください。

Solaris Security Toolkit と CTRL-C キー操作

Solaris Security Toolkit によるセキュリティー強化操作と undo 操作中に CTRL-C キー操作を行うと、システムが矛盾した状態になる可能性があります。本来ならば、セキュリティー強化操作を中断するのではなく、セキュリティー強化操作が完了してから、次に undo 操作が実行されなければなりません。CTRL-C キー操作は、エラー処理や、Toolkit による処理の中断に使用しないでください。セキュリティー強化操作や undo 操作は、前の操作が完全に終了してから再実行してください。

fix-modes による警告の表示

パッケージのインストール中に `fix-modes` を実行すると、セキュアモードの警告が表示されます。この警告は、Solaris ソフトウェアのファイルフォーマット上の問題から表示されたもので、無視してかまいません。

Solaris Security Toolkit に関するアンケート

Solaris Security Toolkit に対するユーザーの皆様のニーズや要望をよりよく理解するために、Documentation ディレクトリ (`<JASS_HOME directory>/Documentation/QUESTIONNAIRE`) にアンケートを用意いたしました。このアンケートの目的は、弊社開発者が皆様のご要望を把握した上で、さらに今後の開発に取り組んでいくためのものです。皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。

アンケートに記入されましたら、`sst-questionnaire@sun.com` までお送りください。

Solaris Security Toolkit ソフトウェアのバグ

この節では、Solaris Security Toolkit 4.1 および 4.1.1 ソフトウェアに関して判明しているもっとも重要なバグと RFE について説明します。

undo により `logadm.conf` の変更が報告される (BugID 5067303)

`update-cron-log-size.fin` スクリプトと `enable-process-accounting.fin` スクリプトを使用してシステムのセキュリティーを強化した後、システムを再起動して強化処理を元に戻すと、元に戻す (undo) 処理から `/etc/logadm.conf` が変更されたことが報告され、通常のバックアップ (Backup)、強制 (Force)、保持 (Keep) オプションからの選択を求めるプロンプトが表示されます。

ユーザーは手動による `/etc/logadm.conf` ファイルの編集を行っていないため、本来ならば、元に戻す処理が正常に行われ、ユーザーの操作は必要とされないはずで

回避策: この場合、強制オプションを選択します。

`/etc/logadm.conf` が編集されている場合は、バックアップオプションか保持オプションを選択します。

Solaris Security Toolkit マニュアルの誤り

この節では、Solaris Security Toolkit 4.1 のマニュアルの誤りについて説明します。

リファレンスマニュアルで `banner.msg` の記載が欠落している (BugID 6177578)

『Solaris Security Toolkit 4.1 リファレンスマニュアル』第4章の「`set-banner-ftpd.fin`」の節のファイルリストに `/etc/ftpd/banner.msg` ファイルが記載されていません。

回避策: 特にありません。これはマニュアルの印刷ミスです。このファイルは、実際のソフトウェアには含まれています。

削除すべき `env var` の記載 (BugID 6177598)

環境変数 `JASS_SHELL_DISABLE` は使用されなくなり、Solaris Security Toolkit 4.1.1 ソフトウェアからは削除されています。『*Solaris Security Toolkit 4.1 ご使用にあたって*』には環境変数 `JASS_SHELL_DISABLE` に関する説明が記載されていますが、この説明は無視すべきです。

回避策: この変数を使用しないでください。この変数は機能しません。

